

令和3年度 読書寸感文集

浜松工業高等学校 図書委員会



学年		科	寸感文
クラス	1年	C	僕はこの本を読んで今のコロナ禍に状況が似ていると思いました。 今まで想定されていなかった事態が突然起こった時、一瞬であたりまえの生活が消えて人々の考え方が変わってしまう。自分勝手な行動をしてしまう。これらのことが特に今のコロナ禍に似ていると感じました。 僕はこの本と現在の状況が似ていることを理解し、事態の収束につながるような行動をしたいと思います。
氏名	*****		
書名	塩の街		
作者名	有川浩		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	私はこの本を読んで「ひと」というタイトルがぴったりだと初めに思った。ひととひととの関わりを考えさせられる本だった。惣菜屋で働くことで自分はどんな人なのか、何がしたいのかを見付けていく聖輔の姿と、その周りの人たちの優しさに心があたたかくなった。両親は亡くなってしまったけれど聖輔は1人じゃない。たくさんの人ではなくていいから、両親や友達など身近にいる人たちをもっと大切に生きていきたいと思った。
氏名	* * * *		
書名	ひと		
作者名	小野寺史宜		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	僕はこの本を読んで、千早茜さんの書く「福」という女性の気持ちにとっても共感しました。福の彼氏である、「大輔」に対する不満や感情などが、しっかりと言葉で表現されていて、男の僕でも思わず声が出てしまうほどでした。また、福目線の文章と大輔目線の文章が交互に書かれていることで、とても読みやすい感じがしました。話の内容的にも伏線の回収が多く、おもしろかったです。読み終えた後には、自分の身の回りの人に対する考え方が少し変わりました。
氏名	*****		
書名	犬も食わない		
作者名	尾崎世界観-千早茜		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	この本を読んで私は、友だちとは何か考えることができた。登場人物の誰もが共感できるような人間関係の悩みが書かれていて、自分のことかのように読むことができた。きっと誰もが1度は思ったことがある物語が書かれていると思う。友だちの形は人によってさまざまだなと思った。私は、心から信頼できる友だちを大切にしたいと感じた。今まで私と関わってきた友だちとより良い関係を築いていきたい。
氏名	*****		
書名	きみの友だち		
作者名	重松清		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	この本には「課題の分離」という言葉が出てくる。これは誰の課題かを明確にし、相手の課題には踏み込まないというものだ。私はこれまで、私のアドバイスを相手に受け入れてもらえず悲しくなったことがある。私は他人の課題に勝手に踏み込んで悲しくなっていた。だからこれからは、「課題」を意識し困っているときに手を貸すこと、アドバイスはするのを受け入れるのも自由ということを大切に、他人と良好な関係を築いていきたい。
氏名	* * * *		
書名	嫌われる勇気		
作者名	岸見一郎、古賀史健		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	「また、同じ夢を見ていた」という作品は主人公である奈ノ花が三人の女性と幸せとは何かについて考えていく話です。 私はこの作品を読んで、あらためて人とのつながりは重要だと感じました。幸せになるための選択肢はたくさんあるがその中から自分で選び行動することこそ意味があり、選択肢は人とのつながりによって変化したり、増えたりするものだと思ったからです。
氏名	* * * *		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年			科	寸感文
クラス	1年	A		この本は飛行機の操縦士である筆者、僕が飛行機で不時着し出会った王子様のお話である。この話の中ではこれまでに王子様がいくつかの星をめぐって出会った、想像力にかける大人を批判している場面がある。その大人たちのことは地位などの自己満足である。しかし、王子様は1番大切なことは目に見えないと考えている。そんな王子様が様々な場面で描かれ、読み終えた後物事の考え方が少し変わる話だった。
氏名	* * * *			
書名	星の王子様			
作者名	サン=テグジュペリ			

学年			科	寸感文
クラス	1年	P		「今、とっても幸せです。」これは、難病と戦った少女が死ぬ直前に主人公に向けて残した音源に入っていた言葉だ。 この言葉を読んだ時、素直に凄い、と思った。私だったら、病気になる自分に嫌気がさして、一生悔いしか残らないと思う。でも、少女は諦めずに病気と、自身と葛藤していて、強いと思った。だから、私は死ぬ時になって「幸せだった」と思える人生にするために、今を楽しんでいこうと思う。
氏名	* * * *			
書名	君は月夜に光り輝く			
作者名	佐野徹夜			

学年		科	寸感文
クラス	1年	P	私はこの小説を読み、人は百八十度変われるということを知んだ。この文章はロードバイクに憧れていた一人の少年がいた。彼はママチャリで走っていたため、周りの人からかわられていた。そんな時に会ったのが彼の人生を変えて人物。岩熊だ。この人にママチャリをロードバイクに変えてもらったのだ。そこから周りの人よりも速くなった。そして諦めないことの大切さを学んだ。この本を読み、人は百八十度変われると知ることができた。
氏名	*****		
書名	スマイリング		
作者名	土橋章宏		

学年			科	寸感文
クラス	1年	Ma		星の王子様は不時着した飛空士が宇宙のどこかの星の王子様と出会い、さまざまな星をめぐっていくという物語で、自分は、出会いということは生きていく上で未知であり大切だということ気づいた。この物語に出てくるように各星に個性的な人がいるように、現実でも人には個性がある。それをしっかり尊重し共存することが大切だと思う。今はコロナで出会いが少ないが、だからこそ出会いという事の偉大さや大切さをしろうとおもった。
氏名	* * * *			
書名	星の王子様			
作者名	サン=デグジュペリ			

学年			科	寸感文
クラス	1年	Mb		一つずつ言葉が消えていく。そんな世界での小説家の物語である。 言葉が消えるたびに言葉遣いが荒くなっていく。読み進めていくうちに普段何気なく発している言葉一つ一つの重みを実感することができる。親しい友達と会話するとき、つい言葉遣いが荒くなってしまう。しかし、この本を読んでから、どれだけ親しくても言葉の重みを意識して、常に丁寧な言葉遣いをしていきたいと思った。
氏名	* * * *			
書名	残像に口紅を			
作者名	筒井康隆			

学年		科	寸感文
クラス	1年	Mb	今も、貴方に恋をしている。 これはこの作品のある1文。ラストに書かれる1文。これは、人になりたい少女と熱を失った地球から逃げた彼との月での一方通行の恋路の結末を正しく表現していた。月での一方通行の恋路は、未来の地球で、人になりたかった少女の子孫とブリキの彼との交流によって相互理解が出来たのだと私は思う。それは少女と彼との相互理解ではなく、残る物としての相互理解だったのだ。
氏名	* * * *		
書名	月の珊瑚		
作者名	奈須きのこ		

学年			科	寸感文
クラス	1年	Mb		いじめ、それは自分たちの周りでも起こりうる問題です。この作品の主人公である石田将也は転校生で耳が不自由な少女西宮硝子との出来事で孤立してしまう。やがて高校生になり石田は自分の罪と向き合っていく。そんな話です。この作品は、いじめ、友達、障害とは何なのか、再度考えさせられる気がしました。自分と、主人公を照らし合わせながら見ると、また変わった視点で見れる作品だと思いました。
氏名	* * * *			
書名	聲の形			
作者名	大今良時			

学年		科	寸感文
クラス	1年	E	この作品はイスのデザインが好きな少年がコンクールに出るまでの物語です。この作品名である105度とは主人公が作ったイスの角度ですが、これを主人公のおじいちゃんが良い人間関係のようだといいました。自分もこれに納得です。人に頼り過ぎると相手も支えきれないし、自分もダメになります。逆に頼らな過ぎて一人でどうにかすることしかできないよりも少しだけ頼って生きていくことが良い人間関係だと思いました。
氏名	* * * *		
書名	105度		
作者名	佐藤まどか		

学年 科			寸感文
クラス	1年	E	この本は死に直面する人間の未練を死神のレオが解決する心あたたまるハートフルミステリーです。僕はこの本を読んで人の生について深く考えさせられました。この本の最後に自分が限られた時間を知っているからこそその命を燃やし濃密なものといえるという印象に残った言葉があります。僕はこの言葉のように最後に後悔することのないように前向きに考え積極的に行動し常に感謝の気持ちを口に出して伝えられるようにしたいです。
氏名	* * * *		
書名	優しい死神の飼い方		
作者名	知念実希人		

学年 科			寸感文
クラス	1年	E	私はこの本を読んで、あなたは自分のためだけにあるのではないということを改めて感じました。この本の中で、仕事によって精神的に追い詰められてしまった主人公が自殺しようとする場面があります。しかし、そのとき友達が来て、「お前の命は、お前とお前を大切に思っている人のためにある。」と言って、自殺をやめさせています。この部分を読んで、これからは、自分勝手に判断せず、命を大切にしたいです。
氏名	* * * *		
書名	ちょっと今から仕事やめてくる		
作者名	北川恵海		

学年 科			寸感文
クラス	1年	Ei	私は、主人公の「いと」の努力と成長をほめたたえてあげたい。人見知りだが笑顔で接客し、お客さんや同じ店で働く従業員を大切にしていた。「ご主人様」がなまりのためにうまくいえず、何回も練習していた。そんないとは努力家だと思う。周りの人の影響でいとは人見知りを克服した。一度辞めた津軽三味線を再開し、人前で演奏するようになった。私もいとのように何か一つ成長するために、小さな努力を積み重ねていきたい。
氏名	* * * *		
書名	いとみち		
作者名	越谷オサム		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ei	日系アメリカ人の高校生の主人公メイと、様々なルーツをもつ高校生たちが、広島への原爆投下の是非について議論する本です。 戦争を経験した年代の方が減っていき、戦争の怖さをあまり実感できなくなりました。戦争に巻きこまれないよう、戦争の恐怖は忘れないようにしたいです。 また、自分の視点からだけでなく、いろいろな人の視点から意見を考えることが出来るようになります。
氏名	* * * *		
書名	ある晴れた日の夏の朝		
作者名	小手鞠るい		

学年 科			寸感文
クラス	1年	Ei	この鳥に巣は似合わないを初めて読んだとき感想は、おもしろかったというよりも感動に近いものだったと思います。本の内容にというわけではなく、終わり方に衝撃をうけたからです。本の表紙や物語の序盤をみた感じ4人の姫の甘い恋物語かと思っていました。しかし、ある時点から物語の色ががらりと変わり最後のページを読み終わったときには呆気にとられたように感じました。何度も読み返したくなる内容でした。
氏名	* * * *		
書名	鳥に巣は似合わない		
作者名	阿部智里		

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	「死んだら天国と地獄どちらに行くのだろう。またその先には何があるのだろう。」この本はクラスメイトからのいじめが原因で自殺した少女の「命の大切さ」を知ることができる物語だ。 私はこの本を読んで言葉の重さを改めて感じた。今は情報化が進み世界中の誰とでもコンタクトがとれるが思わぬところで、人を傷つけるかもしれない。だから言葉の重みを全員が知り、ともに共存できる世界を送りたい。
氏名	* * * *		
書名	天国までの49日間		
作者名	櫻井千姫		

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	舞台はテレビやラジオにより情報が独占されて本の所持が禁止された世界。人々は本が無いことで思考力が落ち、古い情報など知ることはできず、焚書官により見つけた書物も悉く焼かれてしまう…この本は、そんな世界が焚書官の男の視点で描かれているのだが、とにかく内容が非常に現実的なものであり、人々が自ら行動せず現状を受け入れてる描写は衝撃を受ける。緻密な文章も相まって今の私達に語りかけるような作品になっていた。
氏名	* * * *		
書名	華氏451度		
作者名	レイ・ブラッドベリ		

学年			科	寸感文
クラス	1年	R		この本は、人間の心を教えてくれた。主人公は、生前に罪を犯した人間の魂だ。そして、それをがいとする天使。最初こそファンタジーだが、人間の愚かさや醜さが生々しく描かれている。主人公は最初、出会った色々な人物を否定するが、時間をかけ見方を変えることで彼らの中にある「色」を見つける。人間は複雑な色を持っている。一目見ただけでは全ては理解できない。だからこそ理解しようとする気持ちが大切だと思った。
氏名	* * * *			
書名	カラフル			
作者名	森絵郎			

学年		科	寸感文
クラス	2年	C	この小説は中小企業である青島製作所とその会社の野球部の話だ。僕はこの小説を受験前や勝負所の前に読むのが好きだ。青島製作所は不況に陥ったとき野球部存続に対して反対の意見が多発したが実力と粘り強さでその意見を一扫した。その粘り強さで青島製作所の不況も立ち直らせることができた。これに影響された僕は誰にも負けない粘り強さを身に付けた。このことはどんなことにも通ずると思う。これからも大事にしていきたい。
氏名	*****		
書名	ルーズヴェルトゲーム		
作者名	池井戸潤		

学年		科	寸感文
クラス	2年	G	この本は最悪な一日を何度も繰り返す話である。同じ日を繰り返すことには意味があり、主人公がその意味を見つけることができたとき最悪な一日が終わる。現実世界では同じ日を繰り返すことはあり得ないことだけど必ずしも明日が来るとは限らないんだなと思った。だから今できることを今精一杯やらなければならないと思うし、失敗したとしても明日が来ることを信じ、明日が来たとすればまたその一日に感謝すべきだと思った。
氏名	*****		
書名	君が落とした青空		
作者名	櫻いいよ		

学年 科			寸感文
クラス	2年	C	「幸せってなんだろう？」人によって幸せの感じ方は違うと思います。この本はその幸せについて考えさせられる本です。この本を読んで私にとっての幸せは自己決定と自己肯定であり、他人に選んでもらった選択肢ではなく、自分の選択肢。自分が自分の事を認めてあげられるような自分になることが大切だと感じました。人生で一番長く付き合っていくのは自分自身だから自分のことは自分で満たす、そういう人生を送りたいです。
氏名	* * * *		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年			科	寸感文
クラス	2年	D		私は、この本を読んで家族や友人を大切にしていきたいと思いました。この本の中で王子さまと1本のバラのシーンで地球で多くのバラを王子は見ただけで自分の中で大切にしているのはあのバラという所で世界には多くの人々、家族がいるけど自分の家族は世界中探してもひとつしかないということを改めて思えました。今後は、家族や友人を一生大切にしていきたいです。
氏名	* * * *			
書名	星の王子さま			
作者名	サン・テグジュペリ			

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	この本を読んで「自分らしく」ということを深く考えさせられました。誰の人生でもない自分の人生だから自分がやりたいと思うことをして、失敗したらそこから学んで何よりも大切なのは自分自身で考えて行動することだと思いました。人生に完璧な答えはないけど、どのような答えを出すにしても、自分で責任を負えるならあなたの選択は全て正しい。という文を読み、自分なりの意思や判断を大切にしたいと思いました。
氏名	* * * *		
書名	私は私のままで生きることにした		
作者名	キム・スヒョン		

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	この生活がどれだけわがままで自由なんだろう。私がこの本を読んで改めて思ったことです。人生には正解も不正解もないけれどそれを選択できるほどの沢山の選択肢を私は持っています。でも世界には人生を自由に選択できない人がいるのだと思いました。当たり前ようで、当たり前ではないことが私の周りにはいくつもありますがその当たり前だと思っていることに感謝して生きられるような人になりたいです。
氏名	* * * *		
書名	ふたりおなじ星のうえで		
作者名	谷川俊太郎		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	この本は、仕事で中々結果が出ず報われないと思っていた主人公が、あるタクシーに乗ったことで様々なことを知り、自分で運の良い人生を築き上げていく物語だ。 この本を読んで、人のことを第一に考え、前に前にと進んでいく主人公に感動した。また、努力は報われるということを改めてしることができた。もっと周りを見るべきということに気付かされたので、友達や家族を優先できる素敵な女性になりたいと思った。
氏名	*****		
書名	運転者		
作者名	喜多川泰		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	まずこの本が、普通に図書館の本棚に並んでいることに、驚き動揺した。「自殺をするのは、その人が弱い証拠」私は決してそうだとは思わない。自死は「自ら選んだ死」ではなく「追いつめられた死」であり、目指すべきは「生き心地のいい社会」を作ること。私は、その言葉に共感し少しでも参加できたらと考えた。コロナ禍の現代。自殺者はますます増加するかもしれない。人とのつながりがきつと命をつなげる。そう私は信じている。
氏名	* * * *		
書名	ぼくのお父さんは、自殺した。		
作者名	今西乃子		

学年			科	寸感文
クラス	2年	A		
氏名	* * * *		勝ちも、負けも何かしらの理由がある。だとすれば、戦で大切なのは勝つための作戦をたてること。そのことを常に考え、大名を勝利へ導いていく軍師黒田官兵衛の物語である。 私は、結果が出るもの全てに何かしらの理由があると思う。何にでも出来た事、出来なかった事があるから、差が生まれる。その差を少しでも縮めるために、私たちは周りから学び、官兵衛のように作戦をたて、次に向けて準備する事が大切であると改めて感じた。	
書名	黒田官兵衛 天下一の軍師			
作者名	小沢章友			

学年			科	寸感文
クラス	2年	P		この本は作者の芦沢さんが神楽坂についての怪談を書くために集めた話が五話入っています。始めは一つ一つの話かなと思っていましたが、段々読み続けていくと「あれ？」と思う事がいくつもできます。最終的にはまるですぐ横で語りかけられいてるかのように感じました。この本を読んでしまった私ですら、巻き込まれてしまうのかと恐れるほど他人事とは思えないラストでした。最後の方は鳥肌が止まりませんでした。
氏名	* * * *			
書名	火のないところに煙は			
作者名	芦沢 央			

学年		科	寸感文
クラス	2年	P	僕はこの本を読んでいろいろなことを感じました。この本は中学生達が一九四五年、戦争時にタイムスリップしてしまう物語です。この本は小中学生におすすめされていますが高校生でも十分考えさせられる内容になっています。戦争中の悲惨さはもちろん理解することができ、もし自分がここにいたらどうしてたかを考えたりすると恐ろしいです。そのくらい戦争は怖いものだと思います。もう二度と起こってほしくないと改めて感じました。
氏名	* * * *		
書名	僕らの太平洋戦争		
作者名	宗田理		

学年		
----	--	--

学年			科	寸感文
クラス	2年		Ma	言語が消滅する中で、執筆し、飲食し、講演し、交際する小説家を描いた小説。話が進むにつれて言葉が使用できなくなっていても物語が成立していて筆者の語彙力に驚嘆した。私も本を読み語彙力を高めたいと思った。まだ化粧もしたことのない高校生の三女の名前の一文字が消えた瞬間が心に残っている。娘の残像に主人公が口紅を塗る場面はタイトルにもなっていて心を打たれた。
氏名	* * * *			
書名	残像に口紅を			
作者名	筒井康隆			

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ma	これは高校生誰もが持っている悩みや不安が書かれた物語だ。自分の見た目、周りからどう思われているかなど友達関係でのそれぞれ違う悩みを登場人物は持っている。気を使って相手を煽ったり、嘘のことを言うときもある。自分の思ったことと相手が思うことは違うこともある。言葉にしなくても、本当の友達とは相手のことを思って本音で言える人だと思う。悩み事は、友達に助けを求めてもいいということがこの本から分かった。
氏名	* * * *		
書名	ココロ・ファインダ		
作者名	相沢沙呼		

学年			科	寸感文
クラス	2年	Ma		この本は問題を抱えてベンチを温めているだけの5人が駅伝を通じて前を向き次への一步を踏み出そうと奮闘している物語だ。主人公は前十字靱帯を損傷して落ちこぼれになってしまった。私も中学二年の時に前十字靱帯を損傷し、部活で練習できない不甲斐なさから他の部員に負い目を感じたことがある。そんな時合唱コンクールに本気で打ち込むことで元気が出た。何かに熱中することで元気を取り戻せるということに共感できた。
氏名	* * * *			
書名	ベンチウォーマーズ			
作者名	成田名璃子			

学年			科	寸感文
クラス	2年	Mb		僕は、この本を読んで本当に大切なものは目に見えないと感じました。他人の感情や絆や友情などは、確かにありますが実際に見ることは出来ません。だからこそ、それらの本質を見抜くことは難しく、場合によっては他人を傷つけてしまうこともあります。特に大人になると自分のプライドや頑固さがじゃまをして、他人を傷つけやすくなってしまいます。なので子どもの素直な心を大切にしていきたいながら生活していきたいです。
氏名	* * * *			
書名	星の王子さま			
作者名	サン＝テグジュペリ			

学年			科	寸感文
クラス	2年		Mb	この本は、「世界でいちばん貧しい大統領」と言われている前ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏の任期を終えた直後のインタビューの話である。 私はこの本を読んで、たとえ困難でも、もう少しと挑むことが大切だと思った。勝ち負けのある世の中で勝利に勝るものはないと思う。そのため、どんなことにももう少しと挑戦し、数多くの勝利を手にすることで将来がよりよくなっていくと思う
氏名	* * * *			
書名	世界でいちばん貧しい大統領から君へ			
作者名	くさば よしみ			

学年			科	寸感文
クラス	2年		Mb	この本はガン患者である作者のもとにきた人生相談のメッセージと作者の答えについてまとめたものです。 この本でおもしろいのは、作者の回答です。「死んでしまいたいけど家族のために変わらない」と言う相談に自殺を肯定するなんて普通しません。作者はその気持ちを否定せずそのほうが生きやすい、と述べていました。このような作者の意見によって複数の視点をもつことの大切さを感じました。
氏名	* * * *			
書名	なんで僕に聞くんだろう			
作者名	幡野 広志			

学年		科	寸感文
クラス	2年	E	現代日本において、戦争について語るのは半ばタブーとされている気がする。しかし、なぜ当時の人々が戦いを選んだのか、いやなぜ選ばざるをえなかったのかを知することは、決して悪いことではないと思う。なにも知らず、口先で語ることは簡単だ。しかしそれが本質をとらえているとは到底思えない。ことこのコロナ禍でもそうだが、情報を得、そろを理解することで初めて、本質を拘んだ話ができるのだと思う。
氏名	* * * *		
書名	それでも、日本人は「戦争」を選んだ		
作者名	加藤陽子		

学年		科	寸感文
クラス	2年	E	僕がこの本を選んだ理由は、友人に勧められたからです。あらすじは、物語に出てくる「ぼく」がサハラ砂漠に不時着した飛行機を直している所に星の王子様がやってきて「ぼく」に色々な話をしました。そこでな話は王子様の星での話や王子様の考え方色々な事を話したりしていく物語でした。僕は星の王子様を読んで思ったのが、日常にある普通の物も良く考えると何よりも大切な物であることがある。だからこそ普通の事を大切にしたい。
氏名	* * * *		
書名	星の王子様		
作者名	サン=テグジュペリ		

学年		科	寸感文
クラス	2年	E	この本を読んで一番に思ったことは、この本が八十年前に書かれたものとは思えないことである。普通の本は、長い年月が経つと、本に対する理解や味方が変わり、読みやすさが劣ってしまうようなものが多いが、この本は、八十年の年月が経った今でも、変わらず読むことができた。題名にもあるような、シンプルかつ普遍的であるようなものだからこそ、八十年前も今も、自分たちの胸に響くようなものがあるからだろう。
氏名	* * * *		
書名	君たちはどう生きるか		
作者名	吉野源三朗		

学年 科			寸感文
クラス	2年	Ei	メキシコ湾流を舞台に老人が大きさが十八フィートもあるカジキマグロと三日間にわたる死闘を繰り広げる中老人が魚に対する思いが鮮明に伝わってきた。作中で老人が自問自答を繰り返すシーンでは、広く雄大な海の恐怖や不安感が伝わり展開には目が離せなかった。老人や少年、又カジキマグロにも少し感情移入してしまうほど、壮大で臨場感を感じるような描写の表現が刺さった。釣り好きの人が読めばもっと老人に感情移入したのではと思った。
氏名	* * * *		
書名	老人と海		
作者名	ヘミングウェイ		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ei	誰かを助けるために努力するのは気持ちが良いものである。しかし他人が休んでる時に働くのは自分には大きな負担となる。 この本は皆が寝静まっている夜中に救命救急医として働く人たちを書いた小説である。他人の生命に関わる大切な職業である救急救命医。患者の命を繋いだ場面を読んだ時、とても感動した。いつ自分が救急に罹るか分からない。だがそのような時には是非この本の先生たちに救ってもらいたいものだ。
氏名	* * * *		
書名	ナイト・ドクター		
作者名	大北はるか、蒔田陽平		

学年		科	寸感文
クラス	2年	R	この本を読んで、ニュースの見方が変わった。兄が強盗殺人で服役中の直貴は、多くの人々の協力を得て夢を叶えようとするたび、世間の風評のせいで壁に当たってしまう。事件が起きる度に多くの意見が飛び交う。犯人、被害者に向けて発信しているつもりでも、その周りの人々も苦しめているのではないだろうか。昔と違い、情報が発信しやすい時代になっている。意見は多くの人の人生を変えてしまうことを意識することが大切だと思う。
氏名	* * * *		
書名	手紙		
作者名	東野圭吾		

学年		科	寸感文
クラス	2年	R	自分がもし主人公、安音の立場だったらいじめに耐え続けられるだろうか。その時どんな行動を取るだろうか。そう考えさせられました。安音は自殺し、いじめっ子に復讐しようとしたが自分はそうはしたくない。今の時代逃げ道はたくさんあると思うし、自分のことを大切に思ってくれる人が1人でもいる限り自殺はいけないと思った。安音は天国と地獄の選択で地獄を選んだ。僕は自分を認め、天国を選ぶよう強く生きたいと思う。
氏名	* * * *		
書名	天国までの49日間		
作者名	櫻井千姫		

学年		科	寸感文
クラス	3年	C	物語の舞台が浜松市と磐田市だったので場所や物が想像しやすく読みやすかったです。 1番心に残っているのは真人の「怖くても、飛び込まないと、何も始まらない。」という言葉です。私はやりたい事があっても傷つくことが怖くて行動に移さずにいつも後悔しています。これからは、怖くても一歩踏みだして頑張ってみようかなと思いました。ネガティブに考えずポジティブに考えてチャレンジしてみようと思います。
氏名	*****		
書名	毎年、記憶を失う彼女の救いかた		
作者名	望月 拓海		

学年			科	寸感文
クラス	3年	C		
氏名	* * * *			
書名	私は私のままで生きることにした			
作者名	吉川 南			

私はこの本を読んだ事で自分の考え方が本当に変わりました。人間誰でも自信をなくしたり自分が劣っていると思う時があると思います。ですがこの本を読むと自分に自信がついたり自分は自分、他人は他人と考えられるようになりました。今の世の中は良い意味でも悪い意味でも情報で溢れているので混乱する時もあると思いますがこの本は心の栄養になるのでうまくいかないと思った時などに手に取って是非読んで見て欲しいです。

学年 科			寸感文
クラス	3年	C	私はサッカーをしていて、長友選手の本があることを知りこの本にしました。この本を読んで長友選手はどんな環境でも前向きに努力をしていて私も環境が悪い時はネガティブにならず、その環境で何ができるのか見つけて、努力したいと思いました。私は彼らから、揺るぎない意志を貰き、努力すれば夢見た場所にたどり着けると言うことが伝わりました。彼の今と昔から。私たちの生き方を学ぶことが出来ました。
氏名	* * * *		
書名	日本男児		
作者名	長友佑都		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	来年から就職する事になる自分にとって、今年が人生最後の長期休みになるという事で長編小説を読みたくったのがきっかけだったのですが、軽い気持ちで読み始めたにも関わらずとても引き込まれてしまう作品でした。 一人の生徒の自殺をきっかけに、様々な人物が疑い合い、騙し合い、協力しあう様が細かく描写されていて、改めて小説作家の凄さに気づかされました。まだあと2巻ほど残っているので早く読破したいです。
氏名	* * * *		
書名	ソロモンの偽証		
作者名	宮部みゆき		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	この本はOLのテルちゃんこと山田テルコと、マモちゃんこと田中マモルが会って恋に落ちる物語です。テルちゃんはマモちゃんから電話があれば仕事中でも携帯で長電話、食事に誘われればさっさと退社。すべてがマモちゃん最優先で、会社もクビになる寸前でギリギリ働いている、そんなテルちゃんのことをマモちゃんは好きじゃなく、片思いなんです。共感はなかなかできないけどテルちゃんの一途で健気な性格がとても惹かれる作品です。
氏名	* * * *		
書名	愛がなんだ		
作者名	角田光代		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	この本は一流シェフが小学校の給食調理員として奮闘するストーリーです。最初はプライドもあってか暴走気味の主人公が物語を通して成長していく姿が面白かったです。おいしさよりも栄養面を考えて作られる給食だけど、様々な工夫をして子どもたちに向き合う主人公たちが素敵でした。また登場する子どもたちの中には、不登校やネグレクトなどの問題を抱えている子もいて、とてもリアルティーのある物語だなと思いました。
氏名	*****		
書名	給食のおにいさん		
作者名	遠藤彩見		

学年		科	寸感文
クラス	3年	A	この本は、悩み多き青年とアドラー心理学を熟知した哲学者の対話篇形成で書かれている。アドラー心理学の考え方は、普段考えたことのない視点が多かった。中でも「目的論」という考えが面白いと思った。「いじめをうけたから、引きこもる」というのが原因論。「誰かに心配してほしいから、引きこもる」というのが目的論。考え方を変えるだけで過去の経験の捉え方が変わる。「もっと幸せになりたい」と思う人に読んでみてほしい一冊。
氏名	*****		
書名	嫌われる勇気		
作者名	岸見一郎	古賀史健	

学年			科	寸感文
クラス	3年	A		私は、自分自身のセンスを磨くため、この本を読んだ。私は、自分はセンスがないと思っている。しかし、ある先生がセンスは、知識だと言っていた。知識を増やせば、センスも良くなる。そのため、この本から庭の作り方について学ぼうと考えた。この本は、実際の建物と庭を写真付きで解説している。平面図ものっているため見やすく、分かりやすい。この他にも、色々な本を読んで知識を増やしていきたいと思った。
氏名	* * * *			
書名	緑と暮らす。			
作者名	エクスナレッジ			

学年			科	寸感文
クラス	3年	P		この本はジョジョと奇妙な冒険のスピノフとして出た作品ですが、本編の独特な雰囲気がしっかりと小説に組み込まれており、しっかりとジョジョを見ている気分になりました。主人公の敵の倒し方がどれも無茶な攻撃ばかりで、いつ死んでしまうのではないかとドキドキしました。最後のシーンでジョジョパート5の主人公が出てきて、この本の主人公との会話に深く感動し、自分的には大満足でした。
氏名	*****			
書名	恥知らずのパープルヘイズ			
作者名	上遠野浩平			

学年		科	寸感文
クラス	3年	P	東日本大震災から10年が経ちました。当時、小学生だった自分には大切なものを失うという恐ろしさがまだ分かりませんでした。が、高校生になりこの本を読んで改めて大震災の悲惨さを知る良ききっかけとなりました。 被災者の方々の声が多く書かれており、生まれ育ったま町えの愛がとても感じられました。常に準備をしておくことの大切さが改めて分かりました。いつ大震災が起きるか分からないので、常に準備しておきたいと思いました。
氏名	* * * *		
書名	「あの日」のこと		
作者名	高橋 邦典		

学年			科	寸感文
クラス	3年		Ma	まず、この本について簡単に説明をしたいと思います。絶対にアイドルになりたいという主人公の東ゆうという人物が、東西南北の高校の美少女を仲間にし、アイドルへの道を密かに進んでいくというお話です。 この本からは、夢に向かって行く際の「絶対になりたい」という気持ちが、とても大切であるということや学ぶことが出来ました。そして自ら行動をし経験をすること、絶対に諦めないということを基盤にしたいと思いました。
氏名	* * * *			
書名	トラペジウム			
作者名	高山一実			

学年			科	寸感文
クラス	3年	Ma		この本は、現メジャーリーグで活躍している前田健太投手の野球に対する取り組み姿勢などが書かれています。野球の中で投手というのは試合の七、八割ほどかかっていると言われていて。その中で前田投手のモチベーションの作り方、常に新しいことに挑戦し続ける気持ちは、さすがだと思いました。 僕は、この本を読んで、野球を引退したのですが、何事にも新しいことに挑戦し続ける姿勢は参考にしたいと思いました。
氏名	* * * *			
書名	エースの覚悟			
作者名	前田健太			

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ma	「あなたの人生いくらで売れると思いますか。」この言葉を聞いて僕は考え込んでしまった。主人公が充実していない毎日を過ごす中で自らの人生を売るといこの物語はとても非現実的だ。主人公は自分の人生に一年一円という価値が付いてしまい現実を受け止めきれずおかしくなってしまうが最終的に素晴らしい人生を送るという短い中で自分のできることは、自分が思っている以上のことができるということやを考えさせてくれる物語だ。
氏名	* * * *		
書名	三日間の幸福		
作者名	三秋縋		

学年			科	寸感文
クラス	3年	Mb		
氏名	* * * *			
書名	空が青いから白を選んだのです 奈良少年刑務所詩集			
作者名	寮美千子			

私がこの本を選んだ理由は、題名の色と刑務所に関連性が感じられなかったからだ。しかし、読み進めるとほとんどの詩に色を表現する言葉が散りばめられていた。彼らがどんな罪を犯して刑務所に入ったのかは語られていないが彼らの詩によってどんな人生を送っていたのかは想像できた。詩の中の一つに家族によるDVなどの被害にあい、大切な人を失ってしまうというものがあり心が痛んだ。彼らは加害者であり被害者なのかもしれない。

学年			科	寸感文
クラス	3年	Mb		主人公が政治についてほぼ無知だからおもしろい。自分も同じだから共感できたり、それ故の理不尽さや難しさがしみじみと分かる。そして、主人公が野党や官僚時には、批判を言ってくる与党や国民と闘って政治に挑んでいるように、他の政治家もp周りに抗ってもがいて、政治家になる以前からもこの国がよりよくなるようにと考えた自分の意見を成すために努力しているのだと思う。だから彼らのことにもっと耳を傾けたいと実感した。
氏名	* * * *			
書名	総理にされた男			
作者名	中山七里			

学年		科	寸感文
クラス	3年	Mb	私は、津軽地方についてよく知らない。しかし、この本を読んで津軽のこと、人との出会いの必然性というのがよく分かった。そして、作者が津軽を旅しているうちに、どんどん津軽人としての気質を感じ取り自分という存在を確立していく流れに心が動かされた。また、この本は小説であるが、津軽地方のガイドブックのようにも感じた。どのガイドブックよりも鮮明に津軽のことが表現されていて作者の深い郷土愛が感じられた。
氏名	* * * *		
書名	津軽		
作者名	太宰治		

学年		科	寸感文
クラス	3年	E	二十歳にして両親を亡くし、大学を中退する。こんな理不尽な状況でも夢を見つけ、誰にも譲れない人が出来たのは、主人公の強さだけでなく、周りの人たちのお陰でもあると思った。悪い人から守ってくれたバイトの先輩、何かあったら頼ってと言ってくれた大学の友達のお母さんのような人が僕の周りにもいる。その人たちを大切にしなければいけないと思った。そして僕自身も、周りの人を助けられる存在でありたいと思った。
氏名	* * * *		
書名	ひと		
作者名	小野寺忠宜		

学年		科	寸感文
クラス	3年	E	私はこの話を読んで、どの登場人物も気持ち悪く見えました。 主人公である犍陀多は殺人や放火等をした言うまでもない悪人であり、蜘蛛一匹の命を見逃した程度で救われることに違和感があります。しかし御釈迦様も気まぐれで犍陀多を見つけ救われるチャンスを与えており、まるで人間をもて遊ぶような行動に引っ掛かる部分があります。やはり欲のある人間が完璧な存在を作ることはいかないと思いました。
氏名	* * * *		
書名	蜘蛛の糸		
作者名	芥川龍之介		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ei	「100回泣くこと」という物語は結婚を前提として付き合う若い二人の話だが、彼女は癌によって命を落としてしまう。 主人公が病気である彼女にできることは何かを探し続け、お互いに希望や明るさを分け合う二人の姿にとっても感動した。 私はこの物語に当たり前にあるものはそこにあるだけで奇跡であるということに気付かされた。生活の中の当たり前を大切にしていこうと思った。
氏名	* * * *		
書名	100回泣くこと		
作者名	中村航		

学年 科			寸感文
クラス	3年	Ei	私は今まで、「ずっと」や「絶対」という言葉を日常的に使っていました。でも今回この本を読んで、この言葉の重みを知りました。 この本は、ある一組のカップルが出会い、別れるまでを書いた作品です。趣味や価値観が全く一緒に「ずっと」一緒にいると思っていた二人ですが、少しのズレをきっかけに別々の道を歩んでいく。その流れがとてもリアルで切なくて、永遠なんてないんだと実感させてくれるお話でした。
氏名	* * * *		
書名	花束みたいな恋をした		
作者名	黒住光		

学年 科			寸感文
クラス	3年	Ei	僕は、この作品を読んで、家族を大切に思う心を学びました。もし、家族が誰かに殺されてしまったら、僕は怒りの矛先をどこに向けていいかわかりません。この話は犯人に復讐をしていましたが、現実では、心に留め一人悲しむこともあると思います。それらが正解か誰にもわかりませんが、人を思う、家族を思うここはいつまでも大切にして、平和な世の中になればいいと思いました。
氏名	* * * *		
書名	さまよう刃		
作者名	東野圭吾		

学年 科			寸感文
クラス	3年	R	創造的思考をするためには「失敗を恐れずに愚直に自ら行動し、体験すること」が重要であると述べられていた。具体例として一つの問題解決における重要性が詳述されていたが、僕はそのような小さな規模のみならず、人生において当てはまることだと感じた。有用な情報を判断する能力は、思考や体験をもとに高められると思う。様々な経験をすることで多面的に物事を捉えられるような知識や感覚を身に付けていきたい。
氏名	* * * *		
書名	創造性はどこからくるか		
作者名	阿部慶賀		

学年 科			寸感文
クラス	3年	R	浦瀬諒、三十五歳は家具メーカー経理部勤務だ。かれは「植物の不思議」という本から気づきを得て、パラレルキャリアとして夢だったアンティーク雑貨屋を開くことを決心する。 大事なものは、運命のタイミングを逃さないことだ。私は今まで多くの機点を逃して来たように思う。それは行動し続ける事を怠けたからだ。加えて周囲との比較で自分自身を苦しめていた。自分だの何かを得るために、「いつか」ではなく今から動き出そうと思う。
氏名	* * * *		
書名	お探し物は図書室まで		
作者名	青山美智子		